

じょうもんじだい まるきぶね ～縄文時代の丸木舟～

年 組 名 前

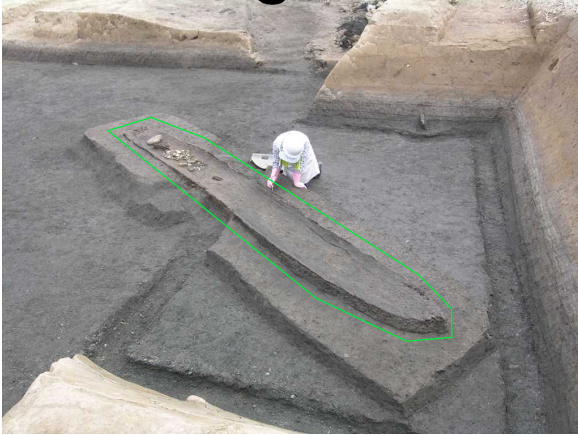
益田市久城町の沖手遺跡から、縄文時代後期から晩期初頭(3100～3400年前)の丸木舟が見つかりました。石見地方では初めての丸木舟の発見です。

challenge

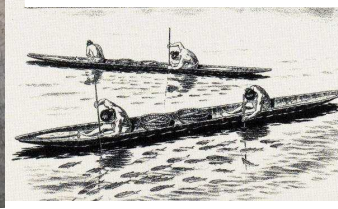
左の写真が沖手遺跡から丸木舟が発掘された時の写真です。

見つかった部分は、長さ 5.3m、はば 55cm、高さ 12cm でした。

① 写真を見て、現代の舟とくらべて、気がついたことや疑問を書きましょう。



発掘中の丸木舟



丸木舟で漁をしている想像図



現代の漁船

- ・小さい。 ・細い。 ・低い。 ・水が入って転覆しないかな？
- ・どうやって作ったのかな？ ・何の木でできているのかな？
- ・かじやスクリューや帆も無い。 ・漕ぐのが大変そうだ。
- ・どれくらいの速さですすむのかな？ ・波の少ないところで使ったのかな？
- ・遠くへは行けないと思う。 ・どんな所でどんな魚を獲るのに使ったのかな？

益田平野の北側は、この丸木船が使われていたころ、湖が広がっていました。

② 海や湖、川の部分に色をぬりましょう。

- ・今より海が近くまでできているね。
- ・舟で移動した方が便利だね。



縄文時代～弥生時代(3900～2500年前)の益田平野



現在の益田平野

縄文時代は、低地に水辺が広がっていました。

③ この時代の人々の生活について、もっとくわしく調べてみましょう。

- ・いろんな魚や貝を獲っていた。 ・竪穴住居に住んでいた。
- ・野山の動物や木の実、山菜などを食べていた。 ・骨や石や木の道具、縄文土器を使っていた。
- ・自然にある物を生かして生活していた。 ・みんなで協力して食料を得ていたと思う。